



LET'S PLAY Indiacca

www.japan-indiacca.com

30 2007.9

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-20-7
水道橋西口会館内
TEL.03-3512-2801
FAX.03-3512-2802
E-mail: JIA@japan-indiacca.com

Japan Indiacca Association ● (社)日本インディアカ協会

「第3回全日本インディアカトーナメント」開催される 一般混合の部「天元」大会3連覇

恒例の「第3回全日本インディアカトーナメント」が天候にも恵まれ盛大に開催された。

今回は、九州ブロック大会で出場資格を得た沖縄県の「どんまい（一般混合）・CARNATION（男子）」が参加するなど、徐々に全日本大会の名にふさわしい大会へ成長してきている。

特筆すべきは、一般混合の部で参加した埼玉県の「天元」は、第1回大会から3連覇をという快挙を成し遂げたことである。さすがは層の厚い埼玉県の代表チームで、今回もこの「天元」をはじめ、一般女子の部では「ザ・イーズ」、シニア混合の部では「とんぼ」がそれぞれ優勝した。

しかし、全体の競技レベルは確実に向上しており、どのチームが優勝してもおかしくないレベルを持ってきている。

なお、今大会上位入賞チームは、2008年8月に開催される「3rd Indiacca World Championships Luxembnrg」の日本代表としての出場権が得られる。

- ・期 日：2007年6月16日（土）
- ・会 場：千駄ヶ谷「東京体育館」
- ・参加数：70チーム
- ・結 果：別表の通り



東京体育館



混合 天 元



シニア混合 とんぼ



シニア女子 WOODS インディアカクラブ



女子 ザ・イーズ



男子 南

	一般女子の部	一般男子の部	一般混合の部	シニア女子の部	シニア混合の部
優 勝	ザ・イーズ (埼玉県)	栄 進 (愛知県)	天 元 (埼玉県)	WOODS IC (愛知県)	とんぼ (埼玉県)
準優勝	ARPC (愛知県)	シャトルランナーズ (埼玉県)	GROVERS (埼玉県)	すずらん (千葉県)	ザ・イーズ (埼玉県)
第3位	ブッチインディーズ (千葉県)	A pach (東京都)	すずらんFC (新潟県)	NSC (新潟県)	ファースト (千葉県)
第3位	レッドシャトルズ (千葉県)	梅田フレンズ (神奈川県)	七窪ビクトリー (石川県)	ブルーエンジェル (埼玉県)	ティ・エス・シー (岐阜県)

'07 Japan Friendship Indiacaca League Match

今年で第13回を迎えた「ジャパン フレンドシップ インディアカ リーグ マッチ」が北は宮城県から南は沖縄県までのインディアカに情熱を燃やしている選手が一堂に会し、暑さをものともせず熱くしかも笑顔と笑いに満ちた大会が実施された。

いつもながら最初のゲームは、16コートすべてがイエローとライトピンクに色分けされた華やかさと統一美により広い体育館がデコレーションされた。

・期 日：2007年6月17日（日）

・会 場：千駄ヶ谷「東京体育館」

・参加数：118チーム

・結 果：下記の通り

〈優 勝〉	イエロー	221ポイント
〈準優勝〉	サックス	195ポイント
〈第3位〉	ロイヤルブルー	193ポイント
〈第4位〉	ライトピンク	189ポイント
〈第5位〉	ライム	187ポイント
〈第6位〉	オレンジ	187ポイント
〈第7位〉	レッド	181ポイント
〈第8位〉	シルバーグレー	177ポイント

〈優勝グループチームの構成〉

一般女子	一般男子	一般混合	シニア女子	シニア混合
シャトルランナーズ (埼玉県)	横須賀シーガルズ (神奈川県)	ピンクオアanser (埼玉県)	フォルテシモ (千葉県)	石神井インディアカクラブ (東京都)
と ば (三重県)	アップル (沖縄県)	ゴロピカリ (群馬県)	レッドロケット (東京都)	フェニックス (千葉県)
のびのびレディーズ (千葉県)		PEACE (千葉県)	ほたる (埼玉県)	総和フレンズ (茨城県)
		ファミリー・ビーズ (栃木県)		

【特別賞】

- ・青葉 埼玉県
- ・アルファ 千葉県
- ・ピンクパンサー 埼玉県
- ・ゴロピカリ 群馬県
- ・七窪ビクトリー 石川県
- ・びたみん 埼玉県
- ・沖縄県 アップル

※特別賞は、対戦相手すべてに勝利したチームに与えられる賞



Reichertshausen STV 創立25周年記念インディアカ国際交流大会

ドイツにおけるインディアカの最初の指導者である H einz K arl K raus氏が創設した R eichertshausen S T V (ライヒェルシャウゼンスポーツクラブ) の創立25周年記念大会に招待され15名の有志が参加し、ドイツ、スイス、エストニア、ルクセンブルグ、ポーランド、スロヴァキアのチーム・選手と熱戦が展開された。

またこの大会には日本を訪れたことのあるドイツの親しい仲間が大勢参加しており、久しぶりに旧交を温め、パーティーでは夜遅くまで語り合い、思い出の花を咲かせた。

大会ではシニア女子の部で日本チームは見事準優勝に輝いた。

大会終了後、Malterdingen (ドイツインディアカ連盟副会長 K arlhein z B uehrer氏の居住地)を訪れ、ドイツ

選手と日本選手が混合チームをつくり、交流大会を実施した。

スポーツは国や言葉を超えてお互いを結びつけるすばらしい文化だということを改めて実感した。



2nd Indiacaca Worldcup in Viljandi 開催

一般混合の部でプラスワン(埼玉)が見事準優勝

第1回大会のカールスルーへ大会(2002年)から4年目の2006年、第2回大会がエストニアのヴィリヤンディ市で開催された。

日本からは選手、役員、国際審判員等総勢35名が参加

し、熱戦が展開された。

日本チームの中では、国際大会3度目の出場となる「プラスワン(埼玉県)」が一番の人気部門である一般男女混合の部で見事準優勝を獲得し、各国から賞賛を受けた。

なかでも特筆すべきは、日本の「国際審判員」の活躍であった。公正かつ的確な判定は、参加各国から多くの感謝

が寄せられた。

今回の国際大会は、2008年8月に開催予定の「3rd Indica World Championships in Luxemburg」になっている。

- ・期 日：2006年8月10日（木）～13日（日）
- ・開催地：エストニア／ヴィリヤンディ市
スポーツホール
- ・参加国：ドイツ、スイス、ルクセンブルグ、エストニア、日本



「1st Indica Junior Worldcup」開催される

日本においてもジュニアへのインディアカの普及の必要性は徐々に高まっている。

国際インディアカ協会は、いち早くジュニアへの働きかけの一環として、標記大会を開催した。

この試みは、インディアカの将来を考える上で大変重要であると考えられる。

参加国、結果は下記の通りである。

- ・期 日：2007年8月3日（金）～5日（日）
- ・会 場：ドイツ／マルターディンゲン
- ・参加数：16チーム
- ・参加国：ドイツ、スイス、エストニア、ルクセンブルグ、ポーランド（5カ国）

・結果：別表の通り

	男子の部	女子の部	混合の部
優 勝	TSV Gruenwinkel (GER)	Gruen-Weiss Hausduelmen (GER)	ISC Reichertshausen (GER)
準優勝	ISC Reichertshausen (GER)	Indica Malterdingen (GER)	TSV Gruenwinkel (GER)
第3位	SV OLTEN (SUI)	SK Nolken (EST)	SK Nolken (EST)

公認A級審判員移行講習会の開催

平成19年度4月1日から新しい「公認審判員制度」が実施され、公認審判員の階梯が三段階制になった。

これを受けて去る6月17日東京体育館において、標記移行講習会が実施され、全国の旧指導審判員（B級審判員）が参加し、インディアカ審判法、競技運営法、審判演習を

実施し、75名の新A級審判員が誕生した。新A級審判員は、都道府県協会の活動に参画すると共に、日本協会事業にも積極的に参画し、最高レベルの審判技術を持つ審判員として位置づけられる。

今後の活躍が期待される。

平成19年度新規公認A級審判員

所属県	登録番号	氏 名	所属県	登録番号	氏 名	所属県	登録番号	氏 名
1 大阪府	101	瀬戸章嘉	26 長崎県	131	用田紀子	51 鹿児島県	156	井手迫学
2 東京都	102	宮城重男	27 鳥取県	132	塚田匠	52 岐阜県	157	矢島喜美子
3 埼玉県	103	坂口進	28 群馬県	133	茂木英一	53 岐阜県	158	奥村真理子
4 東京都	104	山崎憲	29 群馬県	134	木村君子	54 岐阜県	159	野原彰二
5 東京都	110	石井不士男	30 千葉県	135	千葉勝美	55 岐阜県	160	澤田利之
6 福岡県	111	井浦巖	31 茨城県	136	田上次男	56 長崎県	161	仲野多喜子
7 福岡県	112	井浦寿美子	32 広島県	137	橋本邦男	57 埼玉県	162	田口俊夫
8 兵庫県	113	松井真理子	33 広島県	138	河野栄子	58 島根県	163	蔭山茂
9 兵庫県	114	武市智子	34 広島県	139	中島洋子	59 埼玉県	164	藤原敏彦
10 千葉県	115	中居のぞみ	35 東京都	140	加賀谷賢治	60 東京都	165	元岡義夫
11 千葉県	116	中居伸一	36 茨城県	141	鈴木蔚	61 愛知県	166	佐々木俊之
12 兵庫県	117	中石嘉勝	37 東京都	142	上田美幸	62 愛知県	167	坂野三之次
13 愛知県	118	水野実	38 東京都	143	長沼八代治	63 東京都	168	関石啓之
14 大阪府	119	西田真弓	39 千葉県	144	奥田幸夫	64 愛知県	169	寺川嘉廣子
15 大阪府	120	松原京子	40 愛知県	145	加藤高章	65 愛知県	170	高須孝子
16 茨城県	121	飛田一浩	41 東京都	146	保永澄	66 長崎県	171	泉直博
17 大分県	122	桑原紀子	42 埼玉県	147	高橋貴名	67 神奈川県	172	尾島博美
18 大阪府	123	二宮桃代	43 愛知県	148	前川靖夫	68 千葉県	173	中嶋研二
19 埼玉県	124	中村正武	44 長崎県	149	中島喜代美	69 東京都	174	大谷裕進
20 神奈川県	125	長谷川忠信	45 埼玉県	150	栗原一雄	70 埼玉県	175	箕輪兼子
21 愛知県	126	阪野旭	46 東京都	151	鈴木博司	71 愛知県	176	原田政治
22 長崎県	127	滝口稔	47 鹿児島県	152	野村康子	72 東京都	177	杉山喜廣子
23 長崎県	128	川場澄子	48 鹿児島県	153	赤崎ツギ子	73 東京都	178	和田明子
24 東京都	129	山口政雄	49 埼玉県	154	清水栄一	74 東京都	179	清野早苗
25 東京都	130	内野一夫	50 東京都	155	穴戸幸男	75 長崎県	180	高平伸介

平成19年度事業計画 (概要)

【組織の整備・強化】

＜各ブロック協議会との連携、協力＞

・各ブロックで開催される会議に日本協会からも役員または委員が参加し、情報交換を密にし相互の連携を図る。地域協会の育成・援助の方策を検討し活発化を図る。

＜個人会員・公認審判員の拡大＞

- ・現在、全国レベル及びブロックの大会は、スポレク祭りを除いてすべて日本協会の個人会員もしくは公認審判員でなければ参加できないシステムになっている。
会員・審判員のメリットとして大会に参加できるということをアピールする。
都道府県レベルの大会もこれに準ずるよう働きかける。
- ・都道府県レベルの大会は、帯同審判制を採用し、資格の活用と拡大を図る。
- ・ブロック、全国レベルの交流大会も、主審以外は帯同審判員によって競技運営するよう試みる。
会員数や、公認審判員数の関係で大会等が開催できない府県もあっては、参加費に差をつけて、会員でない選手も参加を受け付け、入会の機会をつくる。
- ・各都道府県協会が年間50名の「公認C級審判員」の養成目標に掲げ、その達成に努力する。
- ・「組織強化育成3カ年計画」に基づき、モデル支援協会を指定し、計画的に公認審判員を養成していく。

【理事会・総会の開催】

- ・平成19年度第1回理事会（平成19年5月）
 - ・平成19年度第1回総会（平成19年5月）
 - ・平成19年度第2回理事会（平成20年3月）
 - ・平成19年度第2回総会（平成20年3月）
- ※開催期日及び会場は未定

【専門委員会の開催】

【総務委員会】

- ・日本インディアカ協会の方策・方針の構築
- ・組織育成強化3カ年計画に関すること
- ・理事会に関すること
- ・日本協会事務局運営の充実、発展に関すること
- ・各専門委員会の調整

年2回以上開催

【組織委員会】

- ・個人会員、公認審判員拡大方策をつくりその推進に当たる。
- ・都道府県インディアカ協会の育成強化。
- ・区市町村インディアカ協会の育成強化。
- ・都道府県協会基本調査の実施
- ・公認審判員の資格審査を行い、「公認C級審判員」及び「公認B級審判員」、「公認A級審判員」の認定を行う。

【指導・技術委員会】

- ・指導技術の研究（指導法）の確立。
- ・基礎技術、応用技術の研究。
- ・審判技術の研究（審判法の確立）

- ・競技運営方法
- ・競技運営方法の確立
- ・「公認B級審判員認定講習会」、「公認A級審判員認定講習会」、「公認B級審判員研修会」、「公認A級審判員研修会」、「認定員研修会」の企画、運営。
- ・公認審判員制度の改定
- ・公認審判員認定筆記試験問題の作成及び実技試験要領の作成。
- ・カリキュラムの研究と改定
- ・競技規則の改定
- ・国際審判員の推薦

年4回開催

【事業委員会】

- ・全国レベルの大会の企画立案。
- ・「2007ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ」（東京体育館）
- ・「第3回 全日本インディアカトーナメント」（東京体育館）
- ・用具の公認と公認審査会の開催。
- ・「インディアカ教本」並びに「インディアカ競技規則平成19年度版」の刊行。
- ・ジュニア世代へのアプローチ

年4回開催

【広報委員会】

- ・広報、ホームページに関すること
- ・機関紙「Let's Play Indiaca」の編集
- ・調査研究に関する事項
- ・国際大会、イベントに関すること

年4回開催

【競技会の開催】

【各種全国大会】

- 『第13回（2007）ジャパン フレンドシップ インディアカ リーグマッチ』
・2007年6月17日（日）東京体育館 128チーム（700名）
- 『第3回 全日本 インディアカトーナメント』
・2007年6月16日（土）東京体育館 80チーム（480名）
- 『第30回 全国 インディアカ大会』
・2007年11月4日（日）神奈川県横浜市「横浜平沼記念体育館」80チーム（400名）
「第61回全国レクリエーション大会」の中で開催される。
- 『第20回 全国 スポーツ・レクリエーション 祭』
・2007年9月22日（土）～9月25日（火）
青森県むつ市「しもきた克雪ドーム」48チーム（480名）

【ブロック】大会

- 『第23回 北海道・東北ブロックインディアカ大会』
・2007年9月2日（日）
山形県上市市「体育文化センター」
- 『関東甲信越 ブロックインディアカ大会』
・2007年11月11日（日）
千葉県船橋市「船橋市総合体育館」96チーム（500名）
- 『東海・北陸 ブロックインディアカ大会』

- ・2007年10月7日（日）
静岡県沼津市「沼津市総合体育館」60チーム（360名）
- 『中・四国 ブロック インディアカ 大会』
- ・2007年7月1日（日）
広島県廿日市市「廿日市市スポーツセンター」
72チーム（400名）
- 『関西 ブロック インディアカ 大会』
- ・2007年10月28日（日）
滋賀県大津市「皇子が丘公園体育館」
- 『九州・沖縄 ブロック インディアカ 大会』
- ・2007年11月18日（日）
福岡県福岡市「福岡市民体育館」60チーム（360名）

【公認審判員の養成】

- 〈新規会員登録〉 1,300名
- 【公認C級審判員の養成と認定】
- 〈公認C級審判員認定講習会の開催〉
30回 1,200名 全国各地
- 〈公認C級審判員認定・登録〉 1,200名
- 【公認B級審判員の養成と認定】

- 〈公認B級審判員認定講習会〉 3回 100名 全国各地
- 〈公認B級審判員認定・登録〉 100名
- 【公認A級審判員への移行】
- 〈公認A級審判員認定・登録〉 100名
- 【登録更新】
- 〈個人会員〉 1,700名
- 〈公認C級審判員〉 3,114名
- 〈公認B級審判員〉 315名

【公認B級審判員研修会】

公認B級審判員が3年に1回、最寄りの開催地に集合し、指導法・審判法・競技運営法・安全管理等の実践研究を行う。またルールの共通理解や大会運営について学習する機会として開催している。

今年度は、3会場で開催する。

- 『東日本地区研修会』 2008年1月～3月
- 『中日本地区会場』 2008年1月～3月
- 『西日本地区研修会』 2008年1月～3月
- 【認定員研修会】
- 『東日本地区研修会』 2008年1月～3月
- 『西日本地区研修会』 2008年1月～3月

社団法人 日本インディアカ協会

平成18年度事業報告（概要）

【競技会の開催】

【全国大会】

1. 「第19回全国スポーツ・レクリエーション祭」
 - ・2006年10月21日（土）～10月24日（火）
 - ・鳥取県米子市「県立米子産業体育館」
 - ・48チーム
2. 「第2回全日本インディアカトーナメント」
 - ・2006年6月17日（土）
 - ・東京都千駄ヶ谷「東京体育館」
 - ・67チーム
3. 「'06ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ」
 - ・2006年6月18日（日）
 - ・東京都千駄ヶ谷「東京体育館」
 - ・113チーム
4. 「第29回全国インディアカ大会」（第60回全国レクリエーション大会）
 - ・2006年9月16日（土）～18日（月・祝）
 - ・青森県黒石市「スポカルイン黒石」
 - ・34チーム

【ブロック大会】

1. 「北海道・東北ブロックインディアカ大会」
 - ・2006年9月10日（日）
 - ・秋田県大館市「大館市樹海体育館」
 - ・41チーム
2. 「関東甲信越ブロックインディアカ大会」
 - ・2006年11月12日（日）
 - ・東京都府中市「府中市市民体育館」
 - ・56チーム
3. 「東海・北陸ブロックインディアカ大会」

- ・2006年11月5日（日）
- ・石川県河北市「河北台健民体育館」
- ・48チーム
- 4. 「関西ブロックインディアカ大会」
 - ・2006年11月3日（祝）
 - ・大阪市堺市「市立大浜体育館」
 - ・25チーム
- 5. 「中・四国ブロックインディアカ大会」
 - ・2006年6月18日（日）
 - ・愛媛県西条市「西条市体育館」
 - ・72チーム
- 6. 「九州ブロックインディアカ大会」
 - ・2006年5月28日（日）
 - ・大分県別府市「別府市立総合体育館」
 - ・61チーム

【個人会員と公認審判員の養成】

【個人会員の入会・登録】

1. 「新規会員の入会」 552名 入会登録

【普及審判員の養成と認定】

1. 「普及審判員養成講習会」 全国各地 32回 開催
2. 「普及審判員認定・登録」 709名 登録

【指導審判員の養成と認定】

1. 「指導審判員認定講習会」 愛知県 22名 受験
宮城県 13名 受験
2. 「指導審判員の認定・登録」 35名 登録

【登録・更新】

1. 「個人会員」 992名 更新
2. 「普及審判員」 2,555名 更新
3. 「指導審判員」 199名 更新

〔指導審判員・認定員研修会〕

1. 「東北・関東甲信越地区研修会」
 - ・ 2007. 2. 24.～25. 「土浦市総合体育館」 78名（認定員35名）
2. 「東海・北陸地区研修会」
 - ・ 2007. 3. 3.～4. 「一宮勤労福祉会館」 48名（認定員17名）
3. 「近畿・中四国地区研修会」
 - ・ 2007. 3. 17.～18. 「ウエルサンピア京都」 35名（認定員22名）
4. 「九州・中四国地区研修会」
 - ・ 2007. 3. 24.～25. 「長崎市民体育館」 30名（認定員14名）

【会 議】

〔理事会〕

- ・ 平成18年度第1回理事会 '06.5.30 東京体育館「第3会議室」
- ・ 平成18年度第2回理事会 '07.3.28 東京体育館「第3会議室」

〔総 会〕

- ・ 平成18年度第1回正会員総会 '06.5.30 東京体育館「第3会議室」
- ・ 平成18年度第2回正会員総会 '07.3.28 東京体育館「第3会議室」

〔専門委員会〕

1. 「総務委員会」
 - ・ 理事会の議案検討
 - ・ 事業計画、収支予算、事業報告、収支決算の検討
 - ・ 各専門委員会の調整
 - ・ その他 2回開催
2. 「組織委員会」
 - ・ 今年度は、「組織強化育成3カ年計画小委員会」設置し、8回に亘る会議を招集したため、「組織委員会」としての活動はなされなかった。
3. 「指導・技術委員会」
 - ・ 「公認審判員規定の改定案作成」
 - ・ 認定員規程改定案の作成
 - ・ 実技検定及び学科検定の実施案の作成
 - ・ 普及審判員筆記試験問題の作成
 - ・ その他 4回開催
4. 「事業委員会」
 - ・ 「2nd All Japan Indica Tournament」の企画、運営
 - ・ 「'06 Japan Friendship Indica League Match」企画、運営
 - ・ その他 2回開催
5. 「広報委員会」
 - ・ 広報活動のあり方を検討
 - ・ ホームページの充実
 - ・ 各委員の役割分担
 - ・ Let's Play Indicaの編集
 - ・ その他 1回開催

【国際交流事業】

〈International Indica Association〉

- ・ 定例理事会および総会の開催 2006. 8. 7.～9. エストニア／ヴィリヤンディ市
- ・ 第2回 インディアカワールドカップ 2006. 8. 7～15. 参加国：5カ国（日本、スイス、エストニア、ドイツ、

ルクセンブルグ）

- 会 場：エストニア／ヴィリヤンディ市 市民ホール
- 参加者：35名（うち通訳1名）
- 結 果：一般男子混合の部 第2位…埼玉県「プラスワン」（他は残念ながら入賞を逸した）
- ・ ライヒェルトシャウゼン（ドイツ）25周年記念大会 2006. 9. 22.～29. 参加国：6カ国（日本、スイス、エストニア、ポーランド、スロヴァキア、ドイツ）
- 会 場：インゴルシュタット体育館
- 参加者：15名
- 結 果：シニア女子の部 第2位（他は、残念ながら入賞を逸した）

【組織育成強化3カ年計画の推進】

- ・ 「公認審判員の呼称の変更とカリキュラムの改定」
- ・ 「新しい会員証・公認審判員証の作成と発行」
公認審判員規程が改正されることを受けて、平成19年3月31日更新者及び平成19年1月以降の新規登録者に新資格証を発行
- ・ 「公認A級審判員移行講習会」を立案
旧指導審判員として永年に亘り組織協力をし、高い審判技能、識見を有している者に対して、講習と実習を経た後に資格を付与するという特別措置
- ・ 「組織強化重点県への支援」
沖縄県において「普及審判員の認定講習会」を開催し、43名が新しく認定された。
（財）日本レクリエーション協会の元常務理事北村氏が沖縄に転居され、沖縄県協会の運営をサポートしている。
また、長野県については、県の事情により平成19年度に支援を行うことになった。
- ・ 事務局体制の整備については、税理士事務所に委託し、源泉徴収、雇用保険等社会保険の整備をした。
また、法務局への法人の変更登記を準備し、平成19年6月中に完了する。

〈沖縄県に公認C級審判員48名誕生〉

2007年7月8日（日）浦添市の中学校で「沖縄県公認C級認定講習会」が開催された。
昨年からは県協会の立て直しを推進し、役員・スタッフも一新し、公認審判員養成に力が注がれている。
平成18年度、19年度は日本協会の支援を受け、組織の充実、活動の活発化を図っているものである。
この2年間で90名を超える公認審判員が誕生し、様々なインディアカ活動が展開されることになった。
特に、平成20年度には「九州ブロックインディアカ大会」を誘致することになっており、これを機会にインディアカの活性化、組織体制の整備が図られることを期待するものである。



今回の認定講習会は、日本協会から指導技術委員会の坂口進氏、宮城重男氏が指導並びに試験官を担当した。

平成19年度～20年度 理事・監事

	役 職	氏 名	所 属
1	会 長	吉田 正志	(財)日本レクリエーション協会顧問
2	副 会 長	丸山 正	八王子市レクリエーション協会会長
3	常務理事	押塚登貴夫	元財日本レクリエーション協会部長
4	理 事	井谷 正由	山形県インディアカ協会理事長
5	理 事	本沢 光一	栃木県インディアカ協会理事長
⑥	理 事	金子 良治	滋賀県インディアカ協会会長
⑦	理 事	小林 三郎	株式会社 キャッツ顧問
8	理 事	小森谷大武	千葉県インディアカ協会理事長
9	理 事	塩脇 紀子	船橋市インディアカ協会会長
10	理 事	瀬戸 章嘉	日本赤十字社大阪支部総務課長
11	理 事	田中系之助	愛知県インディアカ協会会長
12	理 事	野々宮 徹	愛知教育大学教授
⑬	理 事	橋本 邦男	広島県インディアカ協会理事長
14	理 事	山口 松博	長崎県インディアカ協会会長
⑮	理 事	高橋 良枝	群馬県インディアカ協会理事長
16	監 事	武石記代子	東京都インディアカ協会副会長
17	監 事	田口 久男	南田口設備サービス代表取締役

○印は新任

社団法人 日本インディアカ 平成19年度～20年度専門委員会

総務委員会		
委員長	吉田 正志	(社)日本インディアカ協会会長
委員	丸山 正	組織委員会委員長
委員	瀬戸 章嘉	指導技術委員会委員長
委員	小森谷大武	事業委員会委員長
委員	塩脇 紀子	広報委員会委員長
委員	押塚登貴夫	(社)日本インディアカ常務理事
組織委員会		
委員長	丸山 正	東京都インディアカ協会会長
委員	高石 邦男	千葉県インディアカ協会理事
委員	金澤 智幸	埼玉県インディアカ協会
委員	桑名 賢	茨城県インディアカ協会理事
委員	長谷川忠信	神奈川県インディアカ協会会長
指導・技術委員会		
委員長	瀬戸章嘉	(社)日本インディアカ協会理事
委員	宮城重男	東京都インディアカ協会理事
委員	坂口 進	埼玉県インディアカ協会
委員	飛田一浩	茨城県インディアカ協会事務局長
委員	奥田幸夫	千葉県インディアカ協会
事業委員会		
委員長	小森谷大武	千葉県インディアカ協会理事長
委員	本沢 光一	栃木県インディアカ協会理事長
委員	山崎 憲	東京都インディアカ協会
委員	高橋 良枝	群馬県インディアカ協会理事
委員	伊藤 昭治	愛知県インディアカ協会副会長
広報委員会		
委員長	塩脇 紀子	千葉県インディアカ協会副会長
委員	山崎 憲	東京都インディアカ協会
委員	大庭 定浩	東京都インディアカ協会
委員	高石 邦男	千葉県インディアカ協会理事

インディアカ会員限定特典のご案内

(財)日本レクリエーション協会では、インディアカの普及・振興を応援するために(社)日本インディアカ協会会員のみなさまに向けて、以下の特典を設けた販売を行っております。ぜひ、ご活用下さい。

■その1 インディアカ関連商品は正規価格の10%割引!

会員の有効期間内であることが条件となります。会員専用注文用紙をご利用下さい。

■その2 ご注文の数量にかかわらず、送料は無料!

ただし、スベア羽根のみのご注文の場合は2本以上でのご注文でお願いいたします。必ず、会員専用注文用紙をご利用下さい。その他の注文方法ではご注文金額により送料がかかりますのでご注意下さい。

■その3 送金手数料も無料!

商品に請求書・振替用紙を同封いたします。(商品と別送される場合もございます。)同封されている郵便振替用紙でご入金いただく場合は手数料がかりません。また、コンビニエンスストアでの送金も可能です。(手数料無料)

■その4 都道府県インディアカ協会に助成

この方法で注文すると、所属されている都道府県インディアカ協会や、(社)日本インディアカ協会に対して購入額の一部助成をしています。

【お願い】

◎JIA会員専用注文用紙を使用してFAXか郵便でご注文ください。同用紙が使用されていないものに関しましては、通常の扱いとなります。(ご注文金額により送料等がかかりますのでご注意ください)。なお、同用紙はコピーしてもかまいません。日レク協会ホームページからもダウンロードできます。

◎ご注文受付後、商品発送までに約1週間程度かかる場合があります。商品の在庫状況にもよりますが、ご使用日等が決まっている場合は必ず余裕をもってご注文くださいますようお願いいたします。

◎なお、この割引制度はご注文者(請求書の宛名)がJIA会員ご本人様に限ります。他人名義(JIA会員以外の方)やその他の団体名でのご注文の場合は割引の対象とならないので、ご注意ください。

商 品 名	税込価格
インディアカ	2,520円
スベア羽根	840円
インディアカ競技規則	735円
インディアカ教本	1,575円
補助ボールA [エース] (185～225cmまで調節可能)	15,225円
ネットA [エース] (幅90×長さ610cm)	7,665円
ラインテープ40mm巾 (白・60m×2巻)	2,520円

●お申し込みお問い合わせは

(財)日本レクリエーション協会 サービスセンター まで
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-7
水道橋西口会館6F
TEL. 03-3265-1335 FAX. 0120-0874-09

■営業時間:

月～金 9:30～12:00、13:00～17:30 (土日祭休)

■ホームページアドレス:

<http://www.recreation.or.jp/goods/>

■e-mail: service@recreation.or.jp

Q & A

Q 1. サービスを行うときに片足を上げた状態で打っても良いのですか？

A. 片足を上げた状態で打つとサービスの失敗となります。

競技規則第13条第3項に「サービスエリア内に両足が置かれた姿勢から……」と同項3の「サーバーがインディアカボールを打つ瞬間は、両足または片足が床面に接地していなければならない」により、サーバーはインディアカボールを打ち放つ予備動作までは、両足が床面に接地された姿勢で静止し、続いて予備動作から打ち放つ瞬間に、動作の流れで軽く片足が浮く程度はサービスの範囲となります。

Q 2. 打球回数でブロックは数えないとありますが、チームとしての回数と個人の打球回数がよく分かりませんので、解説してください。

A. 競技規則第17条第1項の1の「チームは、インディアカボールをネットを越えて相手側コートに返す前3回（ブロックに加えて）プレーすることができる」により打球回数にブロックを数えないというのではなく、ブロックに加え3回とチームの打球回数を規制しているの、個人については、同第17条第4項の1の「競技者は1回インディアカボールに触れたのち、他の競技者がこれに触れる前に、再びインディアカボールに触れた場合は反則になる」により競技者のプレーを規制しています。この基本的なプレーで勘違いされやすいのが、ブロックの接触は数えないという勘違いです。例えば、ブロックの接触後同一ブロッカーが続けて接触すると、反則ではありませんがチームの1回目の打球となると同時に同一競技者としては、2回目の接触となります。よって2回目の接触でネットに打ち込んだインディアカボールに接触すると3回の接触となり反則となります。

Q 3. ブロックについては、ネット上縁から下方30cm、横方向30cmの範囲をブロック範囲としていますが、その範囲でのプレーはバスであってもブロックとみなされるのですか？

A. ブロックプレーとはみなされません。競技規則第20条の「ブロックとは、相手側から打ち込まれてくるインディアカボールを肘から先の部位を使ってネット近くで阻止するプレーをいう」によりそのプレーの範囲を定めています。特に「阻止するプレー」とは、手首を大きく動かさず（手首の微妙な動きは主審の主観に委ねられている）手の平が相手側に向いている姿勢、つまり壁が作られている状態のことです。この姿勢がネット近くの空間にあればブロックとみなされ、それ以外の動作がネット近くでの空間で行われれば普通のバスとみなされる。

Q 4. リストバンドや肘当てを付けても良いと聞きましたが、認められた理由は何故ですか。

A. 競技規則第17条第2項の「競技者がインディアカボールをプレーするにあたっては、必ず片手の肘から先の部位を使用しなければならない」及び同条第3項に「競技者はインディアカボールを素手で打たなければならない。……」によって、打球許容部位と打球の条件が規制されています。これはインディアカ競技の特色として競技者の基本的な動きを示しており、特殊なインディアカボールを取り扱うとき、直接触れてコントロールする腕を動かす範囲に物の装着の必要性はないということ及び公平性を保つことに意味が含まれています。ところが競技者自身の肘の防御が必要な体動の範囲が広がったこと、従来同条3項（注）で「手の障害によって傷害の部位を保護する」ためテーピングが認められる対応があること、プレー中にインディアカボールが手首から肘までの部位に接触しても、その後のプレーに大きな影響を与えないこともあり、肘用サポータ等を必要とする競技者は、その装着を許すことにしました。

Q 5. 試合の開始後、関係者以外の人ベンチや競技区域内に入ってきた場合の処置の仕方を具体的に解説してください。

① ベンチの他のチームの選手または一般の人が入って来た時に主審・副審は、どのような排除するのですか？手順を教えてください。

A. 主審は、コート内のキャプテンを見ながら軽く2回吹笛した後、キャプテンを呼びベンチにいる不当な者の排除を指示します。

副審は、主審の指示を聞き、キャプテンと同様に競技区域から出るように指示する。

② 競技区域内に他のチームまたは大会関係者が入ってきた場合、その位置が主審に近い場合・副審に近い場合・エンドラインに近い場合とありますが、それぞれの対応の仕方を教えてください。

A. 主審であった場合は、吹笛とタイムアウトのハンドシグナル（レフリータイムアウト）で競技を中断し、直接競技区域から出る要請をする。この対応はエンドライン近くの場合も同様である。次に副審であった場合は、デッドの時に直接競技区域から出るよう要請する。

ローカルルールとしての取扱いについて

大会（競技会）は、スポーツ中央団体が制定している競技規則（ルール）に則り行わなければならない。ところが大会開催場所の実情に合わせ特別に決められた規則（ローカルルール）を適用している場合があり、それもさまざまなカタチで行われていることを聞きますので、今回はローカルルールとしての取扱いについて考えてみることにしました。

ローカルルールという言葉は、ゴルフの他はあまり聞きません。何故ならゴルフの場合は、そのコースの地理的特殊条件から競技者の救済処置として特別に決められた規則を定めるからです。また、その規則はそのコース、その試合にだけ適応されるということです。それでは、インディアカのローカルルールは何処までが取り扱えるのでしょうか？

特別に決める規則の基本は、競技者の動き（プレー）に関連する規則以外で大会開催場所の実情で変更がやむを得ない規則に限られます。考えられる規則は、得点、セット数、デュースの取扱い、ネットの高さの4項目です。得点、セット数、デュースの取扱いは、大会参加チーム数により変更せざるを得ない場合が発生します。ネットの高さについても、ボールという物理的な条件が伴いますのでボールが整備されるまでやむを得ない場合が発生します。つまりこれら以外の規則をローカルルールと定め大会を実施することは、スポーツ中央団体が制定している競技規則に則っていない競技になる可能性がありますので「ローカルルールとしての取扱い」については注意してください。